

コリント 第一

17

「主に最高の ささげものを」

コリント人への手紙 I 16章 聖徒への献金 挨拶

アウトライン

- 0. イントロダクション
- I. エルサレムへの献金 1～4節
- II. 旅の計画 5～12節
- III. 信仰のすすめ 13～18節
- IV. あいさつ 19～24節
- V. まとめと適用

主のよろこばれる最高のささげものを



コリントの手紙とは？

- **著者** …使徒パウロ。
- **年代** …55年頃。 **第3回伝道旅行**の途中
- **執筆場所** …長期滞在中のエペソ
この後、コリントを再訪
- **対象** …コリントのキリスト者たち
(離散のユダヤ人と異邦人)
- **執筆目的** …過ちを正し、信仰の成長を促す
キリストの体なる一致を求める



海を挟んで約250km
陸路を廻れば約1,000km

序文		1:1~9
罪の叱責	①教会内の分裂	1:10~4:21
	②罪に対する懲戒	5:1~13
	③裁判の問題	6:1~8
	④性的放縦の問題	6:9~20
質疑応答	①結婚	7:1~40
	②偶像に捧げた肉Ⅰ	8:1~,
	③使徒の権利	9:1~27
	④偶像に献げた肉Ⅱ	10:1~
	⑤礼拝における秩序	11:2~34
	⑥聖霊の賜物	12:1~14:40
	⑦復活	15:1~58
	⑧献金	16:1~12
あいさつ		16:13~24



- 秩序
- 秩序
- 秩序
- 性
- 性
- 偶像
- 秩序
- 偶像
- 性
- 秩序
- 秩序
- 秩序

【コリントとコリント教会】

- アカヤ州(ギリシャ南部)の首都
国際都市。ローマ人、ギリシャ人…etc。
かなりの規模のユダヤ人共同体も存在。
- 不道德の町。少年への性愛、複数の愛人。
神殿娼婦の存在。偶像崇拜が蔓延。
- 異邦人信者が主流。偶像への警戒の薄さ。
基本的教理からの逸脱。自由のはき違え。

パウロは何一つ
難しいことは
言ってない!!

基本的教理の確認・教会秩序の回復が急務



I. 献金の促し

Iコリント16章1~4章

【エルサレムへの献金】 1コリント16:1

さて、聖徒たちのための献金*については、ガラテヤ*の諸教会に命じたとおりに、あなたがたも行いなさい。

*トルコ。第一回宣教旅行で訪れた地域。

*エルサレムの聖徒たちのための献金

■パウロが切望し、目指していたのは、ローマを足がかりにしてのスペイン伝道だが、
→エルサレムへ献金を届けるのを最優先に。

■パウロは、エルサレムで捕縛、ローマへ。



【週の初めの日に】 | コリント16:2 ①

私がそちらに行ってから献金を集めることがないように、あなたがたはそれぞれ、いつも週の初めの日*に、収入に応じて、いくらかでも手もとに蓄えておきなさい。

*日曜(復活の日) …信者が集う日の一つ?。

■ 第三回伝道旅行。小アジアのトロアスで、青年が落ちたのが、「週の初めの日」(使20章)。

■ 「安息日の休みは、神のためにまだ残されています(ヘブル4:9)」 →安息日も大事に!!



【献金の備えのすすめ】 1コリント16:2 ②

私がそちらに行ってから献金を集めることがないように、あなたがたはそれぞれ、①いつも週の初めの日に、②収入に応じて、いくらかでも手もとに②蓄えておきなさい。

①いつも週の初めの日に …定期的に

②収入に応じて …律法の原則が什一献金。

→収穫物の十分の一をささげるもの。

③備えておきなさい

犠牲の動物は、傷もしみもない最良のもの。

→聖別は、前もって備えることが前提。



【同行の可能性】 Ⅰコリント16:3~4

私がそちらに着いたら、あなたがたの承認を得た人たちに手紙を持たせてエルサレムに派遣し、あなたがたの贈り物を届けさせましょう。

もし私も行くほうがよければ*、その人たちは私と一緒に行くことになるでしょう。

*パウロも同行した(使徒20~21章)。

■ 捕縛を預言されながらエルサレムに向かった。

→ どれほど、この献金を重要視していたか。

教会にとってのヘブル的ルーツの重要さ!!



II. 旅の計画 Iコリント16章5~12章



【マケドニア経由で】 | コリント16:5~6

私はマケドニア*を通過して、あなたがたのところへ行きます。マケドニアはただ通過し、おそらく、あなたがたのところに滞在するでしょう。冬を越すことになるかもしれません*。どこに向かうにしても、あなたがたに送り出してもらうため*です。

*ギリシャ北部。

*冬は風向きが逆な上、嵐の季節。

*ローマに向かうか、エルサレムに戻るか。
まだ決めかねていたのだろう。



【五旬節までは】 1コリント16:7~9

私は今、旅のついでにあなたがたに会うようなことはしたくありません。主がお許しになるなら、あなたがたのところにしばらく滞在したいと願っています。

しかし、五旬節まではエペソに滞在します。

実り多い働きをもたらす門が私のために広く開かれています。反対者も大勢いる*からです。

*アルテミス神殿の銀細工職人による迫害も起こっていた(使徒19章)



エペソのアルテミス神殿

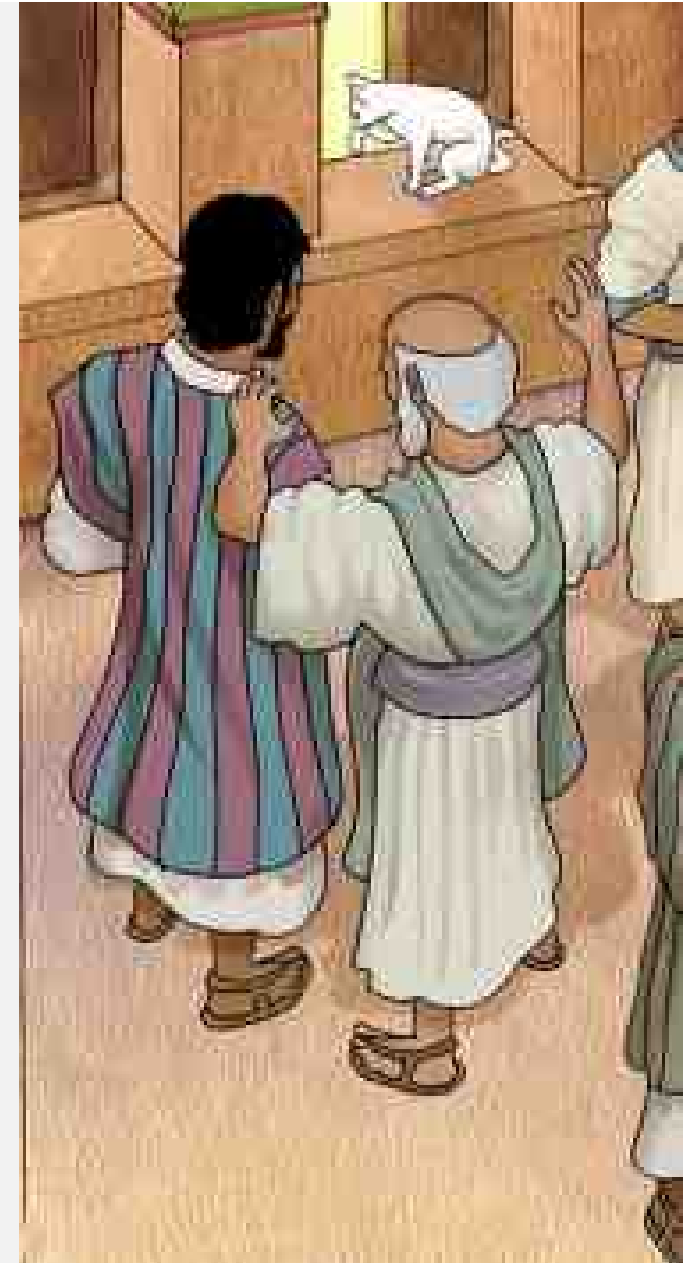
【テモテ】 1コリント16:10~11

テモテ*がそちらに行ったら、あなたがたのところで心配なく過ごせるようにしてあげてください。彼も私と同じように、主のみわざに励んでいるのです。だれも彼を軽んじてはいけません。彼を平安のうちに送り出して、私のところに来させてください。私は、彼が兄弟たちと一緒に戻るのを待っています。

*小アジアのリステラ出身。父はギリシャ人。

パウロが導き育てた、最も信頼する同労者。

■パウロは、大事な手紙をテモテに託した。

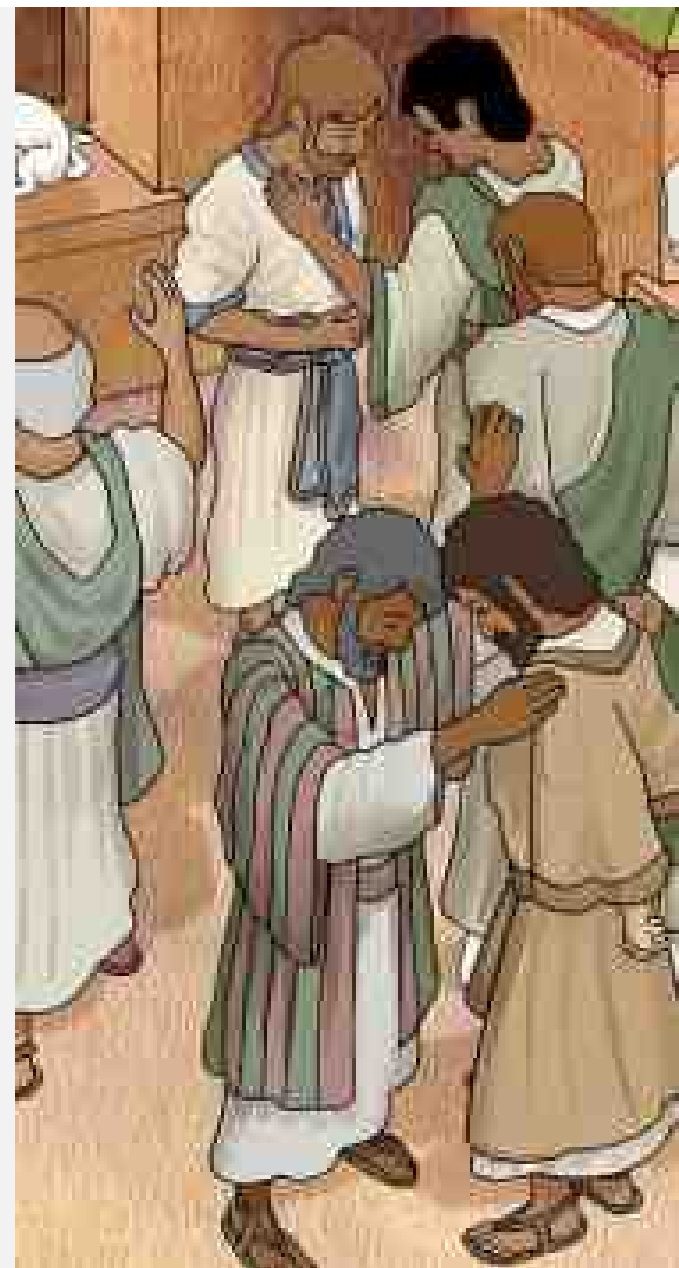


【アポロ】 1コリント16:12

兄弟アポロ*のことですが、兄弟たちと一緒にあなたがたのところに行くように、私は強く勧めました。けれども、彼は今のところ行く意志は全くありません。しかし、良い機会があれば行くでしょう。

*雄弁家アポロ(使徒18:24)。

■アポロ派、パウロ派…と、分裂していたコリント教会だが、当人たちは一致していた。





Ⅲ. 信仰のすすめ Iコリント16章13~18章

A person with glasses is shown in profile, reading a book. The background is a blurred indoor setting with warm lighting. The text is overlaid on the left side of the image.

【四つのすすめ】 I コリント16:13~14

- ①目を覚ましていなさい。
- ②堅く信仰に立ちなさい。
- ③雄々しく、強くありなさい。
- ④一切のことを、愛をもって行いなさい。

【四つのすすめ】 I コリント16:13~14

①目を覚ましていなさい

「ですから、**目を覚ましていなさい**。あなたがたの主が来られるのがいつの日なのか、あなたがたは知らないのですから。マタイ 24:42」

- 教会時代のすべての信者に求められるのは、**携拳**に備え、日々主に従い歩むこと。



【四つのすすめ】 | コリント16:13~14

② 堅く信仰に立ちなさい。

「**堅く信仰に立って**、この悪魔に対抗しなさい。
存じのように、世界中で、あなたがたの兄弟
たちが同じ苦難を通ってきているのです。

「ペテロ 5:9」

- 堅く信仰に立つことが、悪に対抗し、
試練に打ち克つ力になる。



【四つのすすめ】 | コリント16:13~14

③雄々しく、強くありなさい。

「**強くあれ。雄々しくあれ。**彼らを恐れてはならない。おののいてはならない。あなたの神、

【主】ご自身があなたとともに進まれるからだ。主はあなたを見放さず、あなたを見捨てない。

申命記 31:6」

- 信仰者に求められるのは、
主への信頼に基づく勇敢さ。



【四つのすすめ】 | コリント16:13~14

④ 一切のことを、愛をもって行いなさい。

「兄弟たち。あなたがたは自由を与えられるために召されたのです。ただ、その自由を肉の働く機会としないで、**愛をもって**互いに仕え合いなさい。ガラテヤ5:13」

■ キリスト者の自由は、

愛を動機にした行いをもって行使されるべき。



【奉仕のすすめ】 Ⅰコリント16:15~16

兄弟たちよ、あなたがたに勧めます。ご存じのとおり、ステファナの一家*はアカイア*の初穂*であり、聖徒たちのために熱心に奉仕してくれました。あなたがたも、このような人たちに、また、ともに働き、労苦しているすべての人たちに従いなさい。

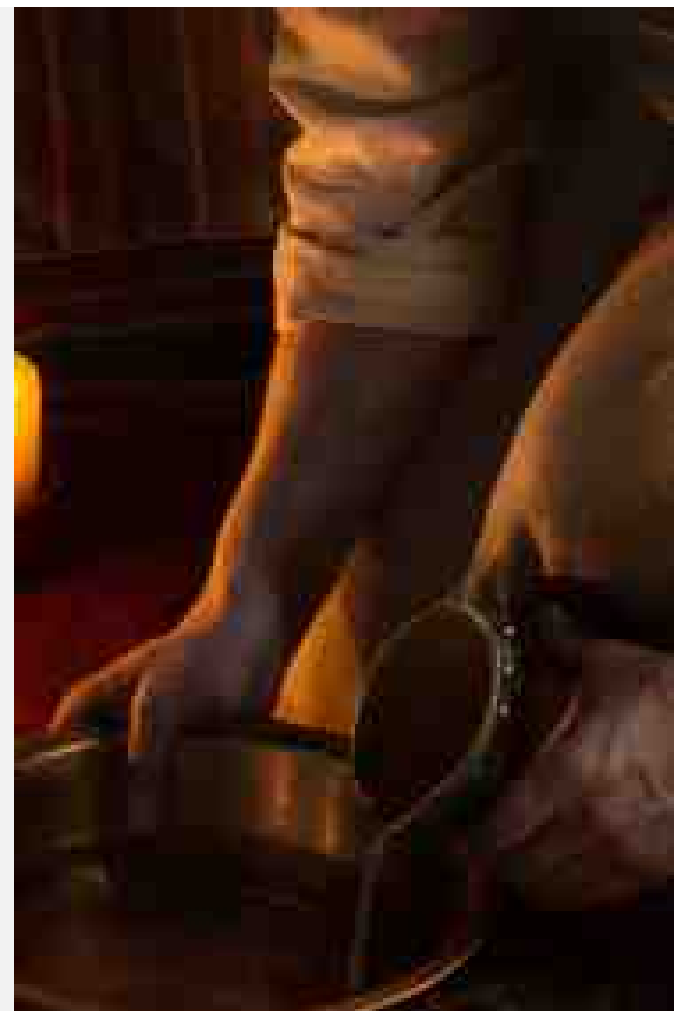
*コリントで最初に救われた一家(Ⅰコリ1:16)

*アカイア州(ギリシャ南部)の州都がコリント

*復活の初穂がキリスト。

*信者に求められるのは、仕え合う関係性

コリント教会に一番
欠けていたこと



【平和の子】 | コリント16:17~18

ステファナとポルトナトとアカイコ*が来たので、私は喜んでいます。あなたがたがいない分を、彼らが埋めてくれたからです。

彼らは、私の心とあなたがたの心を安らがせてくれました*。このような人たちを尊びなさい。

*パウロと共に働くためにコリントから来た人々がいた!!

➔パウロとコリント教会の橋渡しも。

*神との平和を保つ信仰者たちだったと分かる。





IV. あいさつ Iコリント16章19~24章

【アキラとプリスカ】 | コリント16:19

アジアの諸教会がよろしくと言っています。
アキラとプリスカ*、また彼らの家にある教会
が、主にあって心から、あなたがたによろしく
と言っています。

*パウロは、アジア州の州都エペソに滞在中

*コリントでパウロが出会った同労者の夫婦。

パウロと同じ天幕作りの職人。共に働いた。

ローマから来て、パウロの訪問のきっかけに。

アポロに福音を伝え、伝道者に導いた。



【聖なる口づけ】 1コリント16:20

すべての兄弟たちが、あなたがたによろしくと
言っています。聖なる口づけをもって*互いにあ
いさつを交わしなさい。

*クリスチャンの間で交わされていた挨拶。



【パウロの挨拶】 1コリント16:21~22

私パウロが、自分の手で*あいさつを記します。

主を愛さない者はみな、のろわれよ*。

主よ、来てください*。

*口述筆記で、テモテが書いていたのだろうが、
この最後の挨拶だけは、パウロの直筆。

*アナテマ。…呪いとは、祝福が喪失した状態。
神の祝福の喪失の結果→死・滅び。

*マラナタ …再臨の主を待望する言葉。



ガラテヤ人への手紙1:8

「しかし、私たちであれ天の御使いであれ、もし私たちがあなたがたに宣べ伝えた福音に反することを、福音として宣べ伝えるなら、そのような者は**のろわれるべき**です。」

- すべての人に与えられている祝福があるが、主に逆らう者は、祝福を取り去られる。→それが**呪い**。
- 福音をねじ曲げる偽教師には、すみやかに**呪い**が来る。

人類の最終的な結末は、永遠の祝福か。永遠の呪いか。どちらか

【主イエスの恵み】 | コリント16:23~24

主イエスの恵み*が、あなたがたとともにありますように。

私の愛*が、キリスト・イエスにあって、あなたがたすべてとともにありますように。

*カリス …約束に基づく恵み。ヘセツド。

*アガペー …“私の愛(アガペー)”

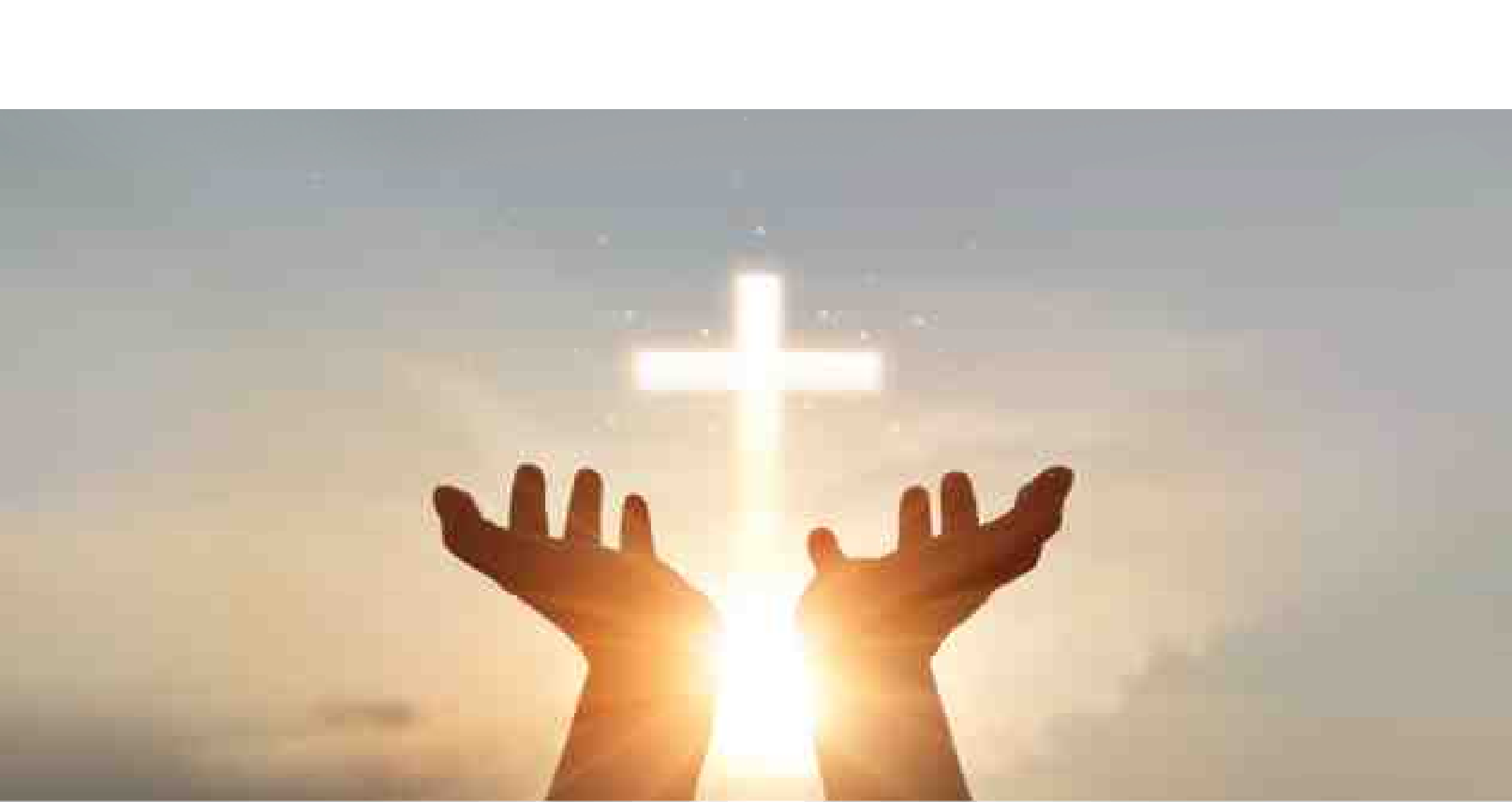
使徒たちが度々使用。

“アガペー = 無償の神の愛”ではない

「私の愛する…(ロマ16章,ヤコブ1章他)」



主の約束の
本質をこそ知ろう



IV. まとめと適用

主のよろこばれる 最高のささげものを

聖徒たちのための献金の背景

■パウロが諸教会に呼びかけた、**エルサレムの聖徒たち***への献金。

(*イエスをメシアと信じた、メシアニック・ジュー)

背景①…当時エルサレムは飢饉に見舞われていた。

背景②…ずっとユダヤ人同胞の迫害下にあり、貧しかった。

すべての持ち物を分かち合う必然性が(使2:44～45)

村八分状態で仕事の収益もなく、先細るばかりだった。

■ディアスポラ(離散したユダヤ人)や異邦人の方が経済的には豊か。

成功して財を築いている者もいた。

聖徒への献金の靈的理由・異邦人信者の義務

ローマ15:27

彼らは喜んでそうすることにしたのですが、聖徒たちに対して
そうする義務もあります。異邦人は彼らの靈的なものにあず
かったのですから、**物質的なもので彼らに奉仕すべき**です。

- パウロがローマ訪問より、エルサレム再訪を優先した理由が、
エルサレム教会に献金を届けることだった。→結果、投獄。
- パウロは、マケドニア、アカイアの信徒が喜んで献金したこ
とを称賛し、**異邦人信者の当然の義務**だと告げている。

エルサレムの平和のために祈るとは？

- 「詩篇 122:6 エルサレムの**平和**のために祈れ。
『**あなたを愛する**人々が安らかであるように』」
- 約束の地の都エルサレムは、神の民イスラエルの象徴。
イスラエルの**平和**の基は、“**主を愛する**”こと。
平和とは、神との和解。
究極的なイスラエルの**平和**は、メシアを信じてもたらされる。
- ユダヤ人が、イエスをメシアと信じることこそ、**真実の平和**。

今の時代における「聖徒たちへの献金」とは？

- 主イエスの福音を信じる、メシアニック・ジューのための献金。
イスラエル、ユダヤ人への伝道のための献金。
 - ➡これは、すべての異邦人信者に課された義務と捉えるべき。
今、エルサレムには、回復されたユダヤ人の教会がある!!
- 生きた実例に学ぼう、**ユダヤ人伝道のための献金をささげよう!!**
 - ➡ハーベストタイムミニストリーズが祝福されている最大の理由。
集められた献金は、イスラエル聖書大学・One for Israel,
アリエル・ミニストリーズの働きのために用いられている。

コリント第一16:2に学ぶ献金の姿勢

- ① いつも週の初めの日に → 定期的に献げる
- ② 収入に応じて、いくらかでも → 収入から一定額を献げる。
律法時代は、十分の一献金などの具体的な規定が様々あった。
教会時代は、制限されず、聖霊の導きのままに献げられる。
→ 主イエスが称賛したやもめの2レプタの献金(ルカ21:2)
- ③ 手もとに蓄えておきなさい。 → 前もって備えて献げる。

※献金について、さらに詳しくは、コリント第二8章で学びます!!

霊とまことの礼拝は、献げることで実現される

■ 聖書に、犠牲を伴わない礼拝はない。

本来、礼拝は自分自身を献げるもの。罪人にはそれができない。

➡旧約時代には、きよい動物が代わりとして献げられた。

■ 福音を信じた者は主の目にきよく、自分を献げることができる。

贖われた私自身を献げるなら、主は喜んで受け取られる。

➡私の命、生涯、時間、物、お金。すべて主のもの。それが原則。

私の献げる献金は、主に贖われた身に相応しいものだろうか？

異邦人信者の義務・聖徒たちへの献金を果たしているだろうか？

コリント第一全体を振り返って

- 異邦人信者が主体で、信仰の幼子のままだったコリントの信者たち。パウロは、基本的教えを再度確認し、さらに信仰の成長を促した。
- 繰り返される対句法的表現は、なんとかして真理を伝えたい、パウロのコリントの信者たちへの愛に満ちている。
- 福音を信じて永遠の救いに至るのか。永遠の滅びに至るのか。同胞が、呪いではなく、祝福に至ることをパウロは切望していた。

御言葉により成長し、福音宣教によるこびもって遣わされよう

コリント人への手紙第一 16:21～24

私パウロが、自分の手であいさつを記します。

主を愛さない者はみな、のろわれよ。主よ、来てください。
主イエスの恵みが、あなたがたとともにありますように。

私の愛が、キリスト・イエスにあって、
あなたがたすべてとともにありますように。

「天のお父さま。わたしは、み子イエス・キリストが、

①わたしの^{つみ あがな}罪を^{じゅうじか}贖うために十字架で^し死に、

②^{はか ほうむ}墓に^{みっかめ}葬られ、

③^{ふっかつ}三日目に^{しん}復活した^{こと}、^{しん}を信じます。

私たち^{いほうじん}異邦人に、^{すく}救いの^{ふくいん}福音を^{つた}伝えてくれた、

あなたの民^{たみ}イスラエルの^{すく}救い、エルサレムの^{へいわ}平和のために^{いの}祈ります。

どうぞ、よろこんで^{もち}ささげ、^{もの}用いられる者としてください。

よろこびもって、^{ふくいんせんきょう}福音宣教に^{つか}遣わしてください。

^{へいあん}主イエス・キリストの^{うち}み名^{つかわ}によって^な祈ります。 ^{いの}アーメン」